

第2次福岡市立高等学校活性化検討委員会（第2次会議）第2回会議議事録

- 1 開催日時 平成22年1月21日（木）18:00～20:00
- 2 場 所 福岡市役所11階教育委員会議室
- 3 議 題 (1) 今後の会議日程等について
(2) 福翔高校の活性化について
(3) 博多工業の活性化について
- 4 出席委員 進藤委員、中村委員、是永委員、武石委員、藤本委員、葛城委員
(順不同)
- 5 傍聴者数 8名
- 6 議事概要

(1) 今後の会議日程等について、事務局より説明があった。

(2) 福翔高校の活性化について、事務局より資料に基づき説明があった。

(委 員) 進学希望に十分応えられる学校になることは当然求められることであるが、社会生活を営み、社会に受け入れられ、社会に貢献できる力を養うという人間教育と進学指導は相対立するものではなく、結果としての進学希望に十分応えられる学校にならないければ、最終的に市民の支持は得られない。

(委 員) 福翔高校について、男女の比率、男女の進学状況はどのようになっているのか。

(事務局) 生徒数は3学年合計で、男子が344名、女子が602名であり、女子がかなり多い状況である。

進学については男女さほど違いはない。就職については、女子の方がかなり多い。

(委 員) 就職希望者はどの程度いるのか。

(事務局) 1学年320名の内、40名程度である。

(委 員) 進学における合格の状況は男女によって違いはあるか。希望する大学に入っているのか。

(事務局) 男女による差はない。可否については、どのような目標を持っているかによる。

(委 員) どのような大学に進学しているのか。進学に特化した学校にしたいということであるが、進学専門の学校にするのか、就職も大事にするのかによって教育課程が違ってくる。

(事務局) 前回の資料に概要を上げているが、国公立の合格者が増えてきている。

(委員) 近年、社会的に高校卒業後の就職が難しくなり、大学等への進学が増加してきたとも言えるのではなかろうか。企業としても優秀な人材であれば高校を卒業した生徒を採用するメリットはある。資格や資質の面で企業が採用をひかえているのであれば、そこに力を入れていくことを考えてもいいのではないか。110年の歴史的な背景、商業高校の伝統を考える必要がある。

(事務局) 大学への進学者が増えてきたのに伴って、求人が大学に移り高校卒業者の求人が少なくなってきた一面もある。

(委員) 福翔高校については、これまで就職率が高かったが、環境的に就職が厳しくなってきたから、進学を希望する者や資格を取って就職したいという者が増えてきたことから、総合学科がいい意味で位置付けられているのではないか。

(委員) さらに進学希望者が増えてきた状況から、進学を前提としたコースに特化したということだろう。

(委員) 現実的には、就職希望者は40名程度であり、進学を目指す生徒の割合が圧倒的に高い状況である。そこを市民や中学生・保護者に理解していただいて、その方向で学校が伸びていくことを考える必要があるのではないか。他府県で特色ある教育課程を持つ学科等において進学実績を伸ばしている取り組みもあるが、福翔高校については、平成18年度から取り組んでいる改革を着実に確実に進めていくことが大切ではないか。

(事務局) 福翔高校の総合学科については、普通科や商業科の科目を生徒が進路希望等に沿って自由に選ぶことができるというものであるが、進学希望者が増え、かつての商業科のような就職を売りにすることが難しくなってきた状況もあり、中学生・保護者の期待に応えるためには、進学に特化したコース編成を行った方がよいと考えている。

(委員) 福翔に入学し、総合学科の中で進路に対する目標を定め、意欲を持って国公立大学等への進学を目指している生徒がいる。社会の状況も変わってきており、成果を上げてきたこれまでの活性化の方向に沿って、進学に特化したコース制は必要であると思う。ただ、商業高校の良さもある。今後も、必ずしもみんなが大学に進学するわけではない。大学に行けば就職があるという状況ではない。自らの進路のことを考えさせる中で、在学中に資格を取る機会が与えられるというのも福翔の良さである。生徒数の少ないクラスであっても、伝統ある仕組みを残して欲しい。

(委員) 福翔の歴史を踏まえた改革を考えていたが、高卒の事務職の求人が少なくなっている現状などを見ると、大学などを目指す人を支えるという高校の在り方は当然であると思う。ただ、進学校化するのもよいが、就職がないから大学に行くというようなことではよくない。目的もなく大学生になり社会に出て何をするかわからないという、先送りするようなものではよくない。進学指導だけではなく、早め早めに目的意識を持たせるような教育も併用しなければならない。

(委員) 進学して何をしたいかというところを育てながら進学指導を行っていただきたい。

(委員) 子どもたちにいかに目標を持たせるかということで学校の先生方は試行錯誤さ

れている。それは家庭の中にも言えることである。今の子は理由をはっきり示さないと納得しない。何のために努力するのか目標を見つけきれないでいる。子どもたちが進学に目を向けてきているからその方向に応援してやり、そのときに目標は何なのかということを考えさせることが大切である。

(委員) 次に、福翔高校の魅力として、進学だけでなく部活動と両立できる生徒の育成や部活動の一層の活性化を図るための手立てについて意見をいただきたい。

(委員) 部活動は感性や協調性を磨いていく上で重要である。指導者の確保が難しいという課題があると思うが、地域の協力を得るための受け入れ態勢などを整えて欲しい。また、福翔はかつて剣道やサッカー等が強く、博多工業は野球で甲子園に行った実績があるが、それによって全国に学校の名を知らしめた。部活動の充実しているところが文武両道ということで世間から評価される。

(委員) 子どもたちが挨拶をしないとか髪を染めたがるとかいうことがあるが、部活動をしていない子が多いことと関係があるのではないかと。部活動をしている子は元気がありあいさつもでき態度がいい。人間を磨いていく上で部活動は重要である。そのための指導者の確保が求められる。また、部活動に熱心な中学校との交流を進めていったらいいと思う。

(委員) 部活動には6割近くが加入しており、いい数字ではないかと思う。部活動の活性化とは、全国で活躍するような部活動を作ることなのか、多くの生徒が加入して文武両道といえる生徒を育てることなのか。どこかを重点的に強くしようということであれば、指導者を外部から招くということもあるが、多くの生徒の加入を目指すということであれば、今の方向で進めていけばいい。どちらを目指したいと考えているのか聞かせて欲しい。

(事務局) 部活動の加入率は4校平均で58.1%であり比較的高い。福翔高校ではほとんどの体育部が県大会に進むなど、活性化しているといえる状況である。重点的に強い部活動を作るのかというお尋ねには直接こたえられないが、生徒はより能力や技術を高めたい、より上位の大会に進みたいと頑張っており、指導者としてもその期待に応えたいと努力しているところである。その結果として全国大会まで繋がっていけば大変素晴らしいことである。広報活動とも関係するが、福翔高校の部活動を外に向けてアピールすることも必要である。

(委員) 次に、どのような教育を行いどのような特色や取組みがあれば福翔高校を勧めやすいか。どのようなPR活動をしたらよいかということについてご意見をいただきたい。先ほどは、強い部活動があればPR効果があるという意見もあった。生徒指導や進路指導の取組みをアピールするというようなことなども考えられる。

(委員) 学校の取組みの問題とそれをいかに広報するかということだと思うが、マスコミなどに取り上げられると効果がある。かつての商業のイメージでコミュニケーションやプレゼンテーション能力を発揮する取組みをアピールするのか、または進学に特化した取組みをアピールするのか考えなければいけない。先日、開催された市立4校合同文化発表会では、ステージ発表や市庁舎ロビーでの作品展示が行われ、各高校の特色が発揮されていた。このようなものを拡大したり福翔独自で取り込んでい

くことも必要ではないかと思う。

(委員) イベントや行事によりアピールできるということである。

(委員) 外に見えてくる福翔のイメージや福翔はどう見られたいと思っているのかというようなことを自己分析する必要がある。

(事務局) ここまで議論していただいたことはリンクしている。学校では生徒の自己実現を目指し、社会に貢献できるリーダーを育成したいと考えているが、その手段として、進学に特化、総合学科コースの深化、文武一道のスタイルを作りたいと考えている。教科「産業社会と人間」「日本語コミュニケーション」や「ジュニア・アチーブメント・プログラム」などの取り組みなどがあり、これらは生徒の学習に対する意欲を高め進路に対する理解を深めてくれることにもなる。部活動や生徒会活動については、より多くの生徒が関わり自主性や規範意識、社会性などを身に付けてもらいたいと考えている。そして、このような取り組みの広報を通じて市民へアピールしたいと考えている。

(委員) 今の説明の内容については、福翔に限らず、市立4校が共通に目的とすべきものだと思う。学科の特色に違いはあっても、市立4校にあてはまる。

(委員) 大学との連携の取り組みはあるか。

(事務局) 福岡大学との連携は市立4校で取り組んでいる。

(委員) 市民の知らない取り組みがたくさんあるのではないか。そういうものをアピールしたらいい。

(委員) 福翔への進学を考えている中学生・保護者へのアピールのため、在校生が中学校に出向いて学校を紹介するようなことはやっていないのか。

(事務局) 中学校への出前授業や高校での授業体験、中学校での進路講演会等への生徒派遣などにより福翔高校の取り組みを紹介している。さらに効果的な手立てはないか、学校でも検討している。

(事務局) 出前授業は各学校で行っているが、市立4校をアピールするとともに中学校における進路学習等に役立ててもらいたいと、4校が協力して取り組んでいる。

(委員) マスコミを活用するのは、広く知らせることができるという点で効果がある。マスコミには、いろいろなところからイベントや行事等の案内や情報が寄せられてくる。それについて、そのまま取材や報道されることがなかったとしても、それらの情報は蓄積され、その後の報道に繋がることもある。校内に広報の責任者を置いて、積極的に取材依頼や情報の提供を行うことは効果がある。例えば、部活動の県大会での活躍にしても、福翔ならではの細かな話題や情報などがあれば、きっと取り上げてもらえる。広報については、センスとまでは言わないが、違うところから見るといいう眼があるとよい。広報はすぐに効果が出なくても、永年に渡るイメージ作りに効いてくる。福翔は情報発信に熱心であるというイメージ作りをしたらよい。

(3) 博多工業高校の活性化について、事務局より資料に基づき説明があった。

(委員) 各学科について、いつから設置されているのか。

(事務局) 前回の資料の中にこれまでの学科改編等の状況をまとめている。

(委員) 中学生で工業高校を目指そうという明確な意識を持っている生徒は少ないのではないか。その意味で、類・コース制は的を得た制度である。地理的な条件や学力などで学校を選び、合格しやすい学科を受検しているという生徒もいるのではないか。

(事務局) 従来、広い範囲から生徒は来ていたが、現在地に移ってから交通の便のいい他の工業高校と比べて不利になっている。

(委員) 地理的要件はどうしようもないので、中身で生徒を惹きつけていかなければならない。

(委員) 香椎工業高校の志願倍率が高いが、何か取り組みがあるのだろうか。

入り口の間口は広い方がよい。学科を決める前に、ものづくりの楽しさを知る事ができるような教育をして欲しい。それが就職に繋がっていけばよいが、既に取り組んでいるインターンシップを夏休み中の1ヶ月間行うなどのことがあってもいいのではないか。

(事務局) 博多工業高校の志願倍率は1.4倍程度あり、現在地に移転した平成2年当時の2倍を越える倍率からすると下がっているが、他校と比較して低いわけではない。移転してから、地理的に福岡工業高校と競合している。香椎工業高校はものづくりに力を入れており、いろいろな技能を高めるコンテストなどに取り組んでいる。

(委員) 博多工業高校を卒業後、大学に進学し専門分野のコンテストで世界一になった例がある。専門分野において良き指導者に出会い能力を発揮できた。生徒の能力や意欲を引き出し、生徒の特徴を生かしてもらいたい。ジュニア・マイスター制度は生徒を勇気づけるものだと思う。全国上位の実績を持っている鹿児島工業高校や熊本工業高校の取り組みを参考にして欲しい。

(委員) 社会で活躍している卒業生に出前事業などで来てもらったらいい。

(事務局) 資格取得については、それぞれに指導を行っているが、学校としての組織的な取り組みが弱いのではないかと思う。今後、しっかりと取り組んでいきたい。

(委員) 福翔高校における大学進学に対する期待と同じで、博多工業高校の場合はジュニア・マイスターの実績が上がってくると、周りからの学校を見る眼が変わってくるのではないか。

(委員) 類・コース制の考えかたはよい。卒業生を受け入れる企業の立場から言うと、1年生では基本的なものを全般的に学び、2・3年生で専門性を高めてきた生徒の方が入ってから伸びる。入社してから専門的なところは研修等で対応できるが、基本的なところはなかなかできずに本人が苦勞する。1年生で基本的に幅広く知識・教養を

身に付け、2・3年生で専門性を持たせるといふ類・コース制のやり方はひじょうによい。

また、専門的才能を持っていて、その方面で伸びていける者はよいが、全般的に見て、採用の際に間口の狭い学科・コースの場合はつぶしがきかない。学科のネーミングだけ見ると、こういう方面しかいけないという学科・コースは就職のとき苦勞するのではないか。応用がきき幅が広い学科が求められているのではないか。小倉工業高校のように電気、機械、建築という基本的な学科編成は参考になる。画像工学科、インテリア科、自動車工学科など、専門性が強いように見えるが、各学科どのような方面に就職しているのか。

(事務局) 大きなくくりでいうと、機械科の就職は製造業が多い。インテリア科からは半数ほどが就職しているが、木工関係は少なく、他は製造・運輸関係に就職している。建築科は建設業がほとんどである。画像工学科は印刷関係が多く、情報通信等にも就職している。自動車工学科は自動車関連の製造業が多い。電子情報科は電気機械の製造業である。

(委員) 建築科には建築士コースがあるが、左官・大工さんの資格などはとれるのか。

(事務局) 資格としてはない。建築士コースは設計関係を扱っている。施工管理コースからどの程度、大工さんなどになっているかは把握していない。

(委員) 最近の社会の状況の中で、どのように学科・コースを見直したらよいのだろうか。

(委員) 企業によってニーズは違うが、学校がスペシャリストだけ育てて企業に送り出すという方向を目指すならそれでもよいが、全体の産業構造からすると、電気、機械、建築という大きなくくりの方が就職に繋がりやすい。検討した方がよい。

(委員) 2点目の部活動の一層の活性化を図るための手立てについては、福翔高校のところでもご意見をいただいた。今後、市立高校全体について協議する中でも取り上げたい。

(委員) 3点目の魅力ある工業高校を目指しどのような特色や取り組みが必要かということについて、ご意見をいただきたい。前回、生徒作品の販売などにより、地域貢献や生徒のプライドを高めることができるという提案や、今回、事務局よりジュニア・マイスター制度について説明もあった。

(委員) ジュニア・マイスターの認定の流れについて説明して欲しい。

(事務局) 博多工業高校では、ほとんどの生徒がいろいろな資格・検定等の取得を目指している。資格・検定等のレベルによって点数化されており、個人毎に加算して、基準を満たしていれば学校から顕彰委員会に申請する。より上位の資格・検定等を取らないと、ゴールド等の獲得はできない。

(委員) 各学科・生徒が競い合うような仕組みを整えて欲しい。

(事務局) 計算技術検定や漢字検定は全員が受検するようにしている。その他の専門分野の資格・検定等の取得についても、生徒の意欲を高め自信を付けさせていきたい。

(委員) 生徒に動機付けをしてあげないといけない。指導にあたる先生方の意気込みも期待したい。

(委員) 工業高校の生徒の場合、技術・技能等を持っていることが普通科の生徒との違いであり大切なことであるから、先生方には、生徒の意欲を高め、資格・検定等の取得についても強く導いて欲しい。

福岡女子高校では、学校としての組織的な取り組みにより、改善がなされてきた。博多工業高校は特色あるコースを有しており、生徒に目標を持たせ、資格・検定等の取得についても強く導いて欲しい。

(委員) 博多工業高校では部活動加入率も50%より少なく、他の3校と比べても低い。

(委員) 例えばマイスター・クラブ等を作ってもいいと思う。生徒に成功体験を見せてやることは大事である。先輩が後輩の目標になる。シルバーやゴールドを取るのはかなり難しい。参加したぐらいでは取れない。上位の資格・検定等の取得のためには、学校としての組織的な取り組みや仕組みが必要である。

(委員) シルバーやゴールドの取得に向けて生徒が頑張っているところをマスコミ等に案内し、広報に繋げていくことも考えていい。それは他の生徒への意識付けにもなる。学校の外にも協力を求めればよい。

(委員) 生徒会活動が活発なところは、学校も活発である。マイスターについても、生徒自らが他の生徒を引き込んでいくような仕組みができればいいと思う。表彰はどのように行っているのか。

(事務局) 全国工業高等学校校長会より表彰される。校内でも表彰を行う。卒業式時の表彰の対象でもある。

(委員) 入学式などでマイスターの先輩を紹介し、新入生に目標を持たせることも大切である。研修などで来ている外国の技術者との交流することも大切ではないか。若い内に外国の人と触れ合う機会は必要である。

(委員) ここまでの話を聞いていて、生徒が興味を持って自ら参加しようと思えるようなきっかけ作りをするのも教育であると感じた。興味あるものを見つけることによって、さらに伸びていくのだろうと思う。

(委員) マイスターなどの取り組みを大切に生徒の意欲を引き出していこうという考え方は、学科・コース等の内容面での活性化にも繋がっていくのではないかと。